

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第7号

平成24年(2012年)
10月1日 発行



大阪別院内陣余間軸（左より十字名号、九字名号、七高僧絵像および聖徳太子絵像）

世の中から「しなやかさ」が消えつつある。現代は極端なバッティング（攻撃）社会である。ちょっとした不祥事もあつという間にブログやツイッターで広められ叩かれる。事件とは無関係なことまで暴き、白黒をはつきりつけ、結論を出す。しかし世の中、そんな白か黒かというような二択の単純なものではない。

何がしかの判断基準は必要であろうが、今の日本社会で最も有力な基準は「損か得か」になってしまっている。しかしこの基準では「得してどうするのか」をはつきりしないと、また人と比べている限り、どこまでいっても満足することはない。

「どうなつたら心の底から慶べるのか」を問い合わせているのが仏教であり、念佛の教えに出遇うことによつて「損か得か」という執われの心に振り回されない生活がいよいよ始まつていく。人間の知恵が行き詰まつてゐる今こそ、私たちはそのことを問われているのではないか。

（佐々木太一）



彼岸 到うと

～大阪別院
彼岸会法話より～

高照寺 隅谷俊紀

があつたときでした。「十年後に大遠忌法要が勤められる」、つまり法要の十年前のことです。それから十年間、僧侶も、またご門徒様も、ともにこの大法要の厳修に向けて力を注いできたのでした。

大遠忌の目的

そこで質問があります。「大遠忌の目的はいったい何でしようか」

「大遠忌法要」という答えが返ってくるかもしれません。もし、大遠忌法要

というのであれば、それはもう盛大に勤まりました。したがつて目的は達成されたことになるでしょう。

しかし、本当の意味での大遠忌の目的は「お念佛の相続」ではないでしょうか。まず自らが親鸞聖人の教えをいただいて、その教えをつなげていくことが、七五〇回忌に出遇った私たちの役目でもあるのでしょう。

(平成23年9月23日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)

法要を勤めたのであれば「私たちが法要を勤めた」と思いがちです。でも今回の大遠忌に出遇えたのは、五十年前に七〇〇回忌に出遇つた方々が教えを伝えてくださつたからこそなのです。

となりますが、私たちにとつては五十年後です。自らの年齢に五十を足してみると「すごい数」になるかもしれません。でもそれでよいのです。私でなくてよいのです。

本山において宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が厳修されました。

法要にお参りに来られていたご門徒の皆様、内陣にご出勤されていた僧侶方、そしてボランティアとして汗を流してくださいました方々、皆様のお顔がそれぞれに輝いていた九日間であつたと感じました。

この「大遠忌」という言葉を私が最初に耳にしたのは、大阪教区で集まり

ともすれば十年前から準備をして、



如是我が聞によぜがもん

伽陀について ～その意味と意義～

大阪教区・光明寺 吉田 譲よしだ ゆずる師



える準備が必要であり、これがなされなければ仏を招くに値しない場ということになります。

平成24年7月6日開催の法友会研修会で吉田譲師からご講義をいただきました。

先請伽陀

いと求める偈頌を勤めるのです。つまり仏に来て欲し

い。まず、阿弥陀仏を請ざる

く赤絨毯といったところです。

仏を招くにふさわしい場を作った意味がない。そのためにも

仏を招くにふさわしい場を作る必要があると聞かせていました。また仏をお招きする際にも、必ずお詫びの言葉を述べます。また仏をお招きする目的は「眞実の法を聞く」ということです。

伽陀とは法要等の最初に唱

伽陀の意義

えられる偈頌です。

よく用いられる伽陀に「先

請伽陀」があります。この伽

陀は「先請弥陀入道場」から始まります。意訳としては「釈

迦、諸仏に先立つてまず阿弥

陀仏を請じたてまつります。

伽陀とは法要等の最初に唱えられる偈頌です。

よく用いられる伽陀に「先請伽陀」があります。この伽陀は「先請弥陀入道場」から始まります。意訳としては「釈迦、諸仏に先立つてまず阿弥陀仏を請じたてまつります。

仏を求めるることは「招く」ということに通じるのです。

また仏をお招きするという

古くは高貴な人を招くため、衣服を地に敷き迎える習慣があつたそうです。現代の形と

ことは目的は「眞実の法を聞く」ということです。

完成するのだと、つまり招くところに懺悔があると示されました。

(玉出宗順 記)



大阪探検

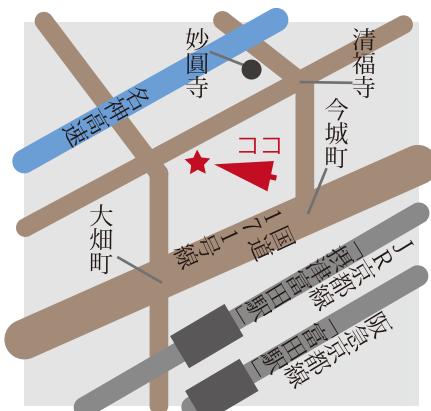
いましろ 大王の杜



今城塚古墳(上)と古代歴史館



再現された埴輪



いましろ 大王の杜

今城塚古墳：見学自由

古代歴史館：お問い合わせ先

高槻市郡家新町 48-8

電話 072-682-0820

(筆名 彰)

古墳は、6世紀前半に築かれた、西向き全長190mの墳丘の周囲に二重の濠がめぐる、総長約350m・総幅約340mの規模を誇る淀川流域最大の前方後円墳です。学術的には、繼体大王（聖徳太子の直系の曾祖父）の陵墓といわれています。高槻市の事業として10年間にわたる発掘調査では、日本最大級の埴輪祭祀場や墳丘内石積、石室基盤工といった当時最先端の土木技術などの、貴重な発見が相次ぎ、昭和33年に国の史跡に指定されました。

「古代歴史館」は、発掘調査で明らかになった形象埴輪群と3基の復元石棺をはじめ、ジオラマや映像展示によって、「今城塚古墳」のありさまを、わかりやすく知ることができる古代体験ミニージアムとなっています。

古墳の周りは遊歩道になつていて、小鳥や虫の声、隣接する小学校や老人ホームからのいのちの音を感じながらウォーキングやジョギングをしている人達をたくさん見かけます。ホツとこころおだやかに、古代文化に思いを馳せるこのできる公園です。

ごえんさんを訪ねて

しょうごんじ 正嚴寺 (滋賀) ふくしま そうゆう 福嶋崇雄 住職



正嚴寺沿革



正嚴寺の全景

滋賀県東近江市（旧能登川町）伊庭には、明治以前は本坊として、境内に四か寺の寺中を持つ妙楽寺という大寺院がありました。妙楽寺は中興了源上人が一時期滞在され、別格別殿という格式の高い寺院でしたが、元文四年（1739）佛光寺末を離れ、西本願寺に転派しました。その時百五十戸の門徒は、本願寺に転派することをいさ

ぎよしとせず、佛光寺に踏みとどまりました。

これに対し、本山においては忠義な門徒として伊庭道場を建て、三代にわたって輪番を派遣し、木仮本尊・光明本尊・隨庸上人念持仏などを下付して、これを支援しました。三代目輪番の正慶が初代住職となり、現在八代目の福嶋崇



鮮やかな光明本尊

県立高校の国語の教師を長年勤められた経験を生かし、「古文書が読めない」という若手僧侶の要望

古文書の会を主催

に応え、『古文書の会』を主催。5人で始めた会は現在30名に拡大。新たな要望から、初心者講座も月一回行われています（お問い合わせは、福嶋師まで）。

能登川高校で、開校当初校歌が公募され、福嶋師作詞の作品が選ばれ、現在も校庭の石碑に刻まれています。（長田 譲）

方丈堂出版から出されたDVD、立体紙芝居『親鸞さま』（左）と妙好人『讃岐の庄松さん』。ともに福嶋師が解説されています



■正嚴寺 (しょうごんじ)
〒521-1235
滋賀県東近江市伊庭町
1999
電話 0748-42-1657
Fax 0748-42-1657
JR 東海道線「能登川駅」
より徒歩約 30 分
(約 2km)

大悲トピックス

■大阪別院・岡地納吉氏逝去

昭和43年より永年にわたって大阪別院を護持してくださいました岡地納吉氏が、去る7月3日逝去されました。行年89歳。

先日、納吉氏の思い出を、長女の久美子さん（現在、母の康さんとともに大阪別院を護持してくださいます）にお聞きしました。

納吉氏は当初、木津市場にお勤めをされながら、主に本堂の掃除、境内の除草、植木の害虫駆除等をしてくださいました。

その後、本山の御正忌報恩講や、あちこちのお寺を参詣されて、少しずつお莊嚴や仏花の生け方を勉強されたとのことでした。

平成12年の大阪別院修復落慶法要にお参りされる岡地氏



と、お見聞を伺いました。

昨年の大遠忌法要にお参りされるのを楽しみにされていたのですが、体調が思わしくなく、お参りはかねませんでしたが、写真で盛況な様子を拝見され、大変喜ばれていたそうです。

また久美子さんは「大阪教区の皆様をはじめ、多くの方々のお陰で無事勤めさせていただきました。本当にありがとうございました」と謝意を表していました。

また仏具のおみがきは、いつたん始めると時間の経つのを忘れるくらい没頭され、内陣だけではなく、書院やお内仏の仏具までピカピカに磨かないと終わらないのが常だつたそうです。

■懇志お礼
神戸市北区 光徳寺様

燐ホールディングス グループ

なごみ庵

ま・た・ぱ・ま

KITAHAMA

法要料理

■四條畷店 0743-78-7521
■瓜破店 06-6769-0140
■伊丹店 072-773-7531

希望の場所までお届けします。

※2012年5月現在 [2-0132]

御本山 近用達

株式会社 川勝法衣店

フリーダイヤル 0120-075-055
(060-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入
電話(075)371-0367(代)
FAX(075)371-5088

御本山佛光寺御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

T600-8503
京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
フリーダイヤルTEL 0120-075-720番
フリーダイヤルFAX 0120-075-490番

株式会社 モントラベル

〒550-0013
大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
TEL. 06-6531-1344
FAX. 06-6531-1346
<http://www.monto.co.jp>
仏跡参拝ならお任せください!

(株) 小林造園

代表取締役：小林正典
〒603-8442
京都市北区西野山東町 36-1
tel 075-491-4256
fax 075-491-9432

燐ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 ご葬儀相談センター (24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK)

0120-567-701

※2012年5月現在 [2-0131]

だいひ 絵日記

- 7月6日(金) 法友会研修会(伽陀について・講師:吉田 謙師)
- 7月17日(火) 佛青懇和会懇親会
- 7月26日(木) 大悲の会編集会議(第7号読み合わせ)
- 8月13日(月)~15日(水) 大阪別院盂蘭盆会
- 8月29日(水) 大悲の会編集会議(第7号読み合わせ)(正念寺にて)
- 9月19日(水) 大阪別院彼岸会(布教:佐々木太一 師)
- 9月22日(土・祝) 大阪別院彼岸会(布教:隅谷俊紀 師)
- 9月25日(火) 大悲の会編集会議(第7号発送作業・第8号内容検討)
- 9月27日(木) さつき会研修会(真宗高田派本山専修寺)
- 9月30日(日) 佛青懇和会懇親会(バーベキュー大会・大阪別院にて)

義の様子で講義される吉田謙師(右)講義の様子



創業安政3年
京 佛 具 調 進
森田屋
福野御佛具處
〒601-8424
京都市南区西九条猪熊通九条上る
tel. fax 075-691-8423

正しい値段 正しい奉仕
**一佛壇・佛具
又重屋®**
南海高野線堺東銀座街
〒590-0077 堺市堺区中瓦町1-3-9
電話 072-232-0067・1565
FAX 072-232-6339

慶事・仏事・各種会合などの際は
和光菴のお料理を御利用下さい。
0120-11-5680
仕出ちは年中無休 ※年末年始除く
株式会社 和光菴 京懐石
〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町3-32
<http://www.wakouan.co.jp>

協 賛
法 友 会
さ つ き 会
佛 青 懇 和 会

和奏の会 翠笛会
寺院のイベントに邦楽(尺八・
箏)出張演奏いたします。
曲目はリクエストできます。
事務局:阪南市新町 宝林寺
電話 072-472-1414
<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

表具 八木米寿堂
御本尊掛軸修理 絵画、書の表装
〒600-8073
京都市下京区柳馬場通仏光寺上る
tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

大阪教区・別院 行事予定

さつき会（坊守会）

12月4日（火）午後2時 研修会

講題：『大経』偈文に聞く

講師：門川崇志 師（淨方寺）

佛青懇和会（青年会）

10月20日（土）午後4時 仏具おみがき

大悲の会（『大悲』編集会議）

10月31日（水）午後6時 編集会議

11月29日（木）午後6時 編集会議

12月25日（火）午後6時 編集会議

※場所明記のない行事は大阪別院で開催

大阪別院・御親修報恩講

10月27日（土）午後2時より

勤行・御親教・複演・挨拶

複演（法話）：仲井秀明 師（滋賀・常教寺）

編集後記

★4 頁「大阪探検」に掲載させていただく内容をご推薦くださる方は大悲の会までご連絡ください。また、取材していただき記事をお送りいただいても結構です。★5 頁「ごえんさんを訪ねて」について。大阪教区の全寺院は、昨年編集・頒布いたしました大阪別院記念誌『乗大悲願船』に掲載いたしました。そこで「ご

えんさんを訪ねて」では大阪教区以外の「ごえんさん」を訪ねていきます。「ごえんさん」をご紹介いただければ幸いです。★大悲の会のメンバーだけでは情報収集に限りがあります。『大悲』は皆様のご協力によって発行させていただいております。今後ともよろしくお願ひいたします。

（隅谷俊紀）

大阪教区・別院だより『大悲』 第7号
平成24年(2012年)10月1日発行 (発行部数 2000部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話 06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

大悲の会

長田 譲（会長） 門川崇志（監事）

隅谷俊紀（副会長） 佐々木太一

寿栄松正顕（会計） 葦名 彰

玉出宗順（会計）